

港に 灯が ともる

ストーリー

1995年の震災で多くの家屋が焼失し、一面焼け野原となった神戸・長田。かつてそこに暮らしていた在日コリアン家族の下に生まれた灯(富田望生)。在日の自覚は薄く、被災の記憶もない灯は、父(甲本雅裕)や母(麻生祐未)からこぼれる家族の歴史や震災当時の話が遠いものを感じられ、どこか孤独と苛立ちを募らせている。一方、父は家族との衝突が絶えず、家にはいつも冷たい空気が流れていた。ある日、親戚の集まりで起きた口論によって、気持ちが昂り「全部しんどい」と吐き出す灯。そして、姉・美悠(伊藤万理華)が持ち出した日本への帰化をめぐり、家族はさらに傾いていく——。なぜこの家族のもとに生まれてきたのか。家族とわたし、国籍とわたし。わたしはいったいどうしたいのだろう——。



圧倒的な取材量を基に、 アフター震災世代をリアルに描く オリジナルストーリー

本作は2021年に公開した「心の傷を癒すということ 劇場版」を契機に、表情豊かな港町・神戸から世界へ響く映像作品を届けようと立ち上げられた「ミナトスタジオ」の船出作品。主人公・灯の苦しみや葛藤、成長を見事に演じ切ったのは今作が初の映画主演作となる富田望生。監督は、20年以上にわたり、NHKの演出家として「カムカムエヴリバディ」など数々のドラマを手掛けてきた安達もじり。神戸で暮らす人びとへの膨大かつ綿密な取材を基に、震災後をリアルに描くオリジナルストーリーを作り上げた。

富田望生

伊藤万理華 青木柚 山之内すず 中川わさ美 MC NAM 田村健太郎
土村芳 渡辺真起子 山中崇 麻生祐未 甲本雅裕

監督・脚本 安達もじり 脚本 川島天見 音楽 世武裕子

エグゼクティブプロデューサー：大角正 プロデューサー：城谷厚司 堀之内礼二郎 安成洋 取材：京田光広 写真：平野愛
特別協力：全国映画センター 助成：スガキ文化庁文化芸術振興費補助金（日本映画製作支援事業）| 独立行政法人日本芸術文化振興会



劇場情報は公式ウェブサイトをご覧ください。
minatomo117.jp

公式Instagram・Xアカウント：@minatomo117

前売券 1,200円 発売予定日/4月28日～(販売所により発売日が異なる場合があります。)
(当日券/一般:1,500円、高校生以下:800円、**悠悠映画塾会員は1,100円**)

前売券販売所 ザ・ヒロサワ・シティ会館、ひたちなか市文化会館、デジタルチケット
【前売券予約電話番号】茨城映画センター内：090-2641-3156
(土・日・祝日を除く 午前10:00～午後5:00)

●感染症対策の為、発熱や体調不良時には来場をお控え
いただきますようお願いいたします。またご入場の際等、
適宜手指の消毒にご協力をお願いいたします。

チラシ持参で一般当日券1,300円に割引

PassMarket
Yutoo!



※デジタルチケットは、
上記の二次元コードより
購入できます。